

進学校における授業内容

— 生徒の知的発達と受験 —

三ッ井富士夫

一、県内の進学校の状況

新潟県の大学進学率全国最下位がここ数年続いている。それについては、自民党県連の「新潟高教組による高校教育のゆがみや進学指導不熱心」という発言や、「基本的には志願率の低さ、特に、女子志願率の低さ」を長野県との対比で示した「高教組見解」（一九八九・三）などがある。基本的には、八木三男氏が、『今、教育の現場で』（一九八一年・新潟日報事業社）の中で分析された、第一次産業の比率の高さ、所得水準の低さ、大学収容力の低さ等々の中で、「総じて所得水準が進学率の低さを規定し、進学率の低さが国公立大学の進

学率の低さを規定している」という指摘が当を得ていると思われる。また、八木氏が具体的資料をもとに分析した、生徒一人あたりの県教育費の低さ等「県の教育に対する財政的立ちおくれは蔽い難い」、「新潟県の教育財政は、財政的にはやらずぶったくりという傾向が非常に強い」という指摘も、今年度予算で県教委が打ち出している「進学推進事業費」（四千万円を二十校の進学校に）の施策に端的に示されていると思われる。

さて、県内のいわゆる「進学校」と言われる高校は、共通一次試験結果や国公立大学合格者数などでランク付けされ、高校受験も、それを反映した形で輪切りに

されている。進学校へ入学する生徒の資質も、輪切りに応じたものになっているのが実態である。生徒激減期に向けた「生き残り」戦略として私立進学校が、国公立大学合格者数の増加を目ざし、七限授業、ゼロ時限授業と、より一層の「詰め込み」教育の徹底をはかり、ランクアップをめざすゆえんである。

公立進学校にあっても、大手予備校の県内進出を含む受験産業による学校攻勢とも相俟って、国公立大学、有名私立大学への合格者数増を第一義とした進学指導にかり立てられている。しかも、そのことは、トップレベル校ではまだしも、進学校として低いランクにある高校では、生徒の実態との矛盾をかかえ、進学指導に四苦八苦しているのが実状である。

本稿では、それらの背景の中で、進学校といわれる学校における授業内容について、その問題点を生徒の知的発達とのかかわりから考えてみたい。

二、進学校のカリキュラムの特徴と授業

(1) カリキュラムの特徴

資料として後掲した新潟市内A、B、C三校の教育

課程（カリキュラム）を見てみよう（三八ページ参照）。

A校は県内進学校のトップグループに入る学校であり、B校は、第二または第三グループに入る進学校であり、C校は、普通科の一、二割程度が四年生大学に進学する学校である。

カリキュラムの特徴点は、一つには一年時での数学、英語、国語の増単（一一単位増）である。そのために保健や芸術の一単位履習が生じている。

もう一つは、二年時での、理系、文系あるいは、受験科目を意識した理科、社会の選択である。二年で選択した理科、社会科目を三年で、さらに演習もしくは補充単位として履習できるようにしてある。

さらにもう一つには、三年時での、文系、理系コース制である。理科・数学を中心とした理系、国語・社会を中心とした文系と、教科の極端な偏りがある。選択による国語、社会、理科、英語、数学等で、受験用の演習単位が設定されている。

これらのカリキュラムの背景には、国公立大学共通一次試験への対応がある。九〇年度入試での「大学入試センター試験」（いわゆる「新テスト」）の実施によってより複雑な対応をせまられることになるが、基本的には変わらない。また、それは、早期からの文系、理

系の受験科目への対応を志向させることになる。また、入試での高得点をめざすための模擬試験なども直結した演習（いわゆる予備校流の）単位の設定さえ導入されているのが実態である。

必ずしも進学校といわれてはいないC校でも、共通したカリキュラムの対応が見られるのは、大学進学にかり立てられる教師、生徒の意識の反映と思われる。それだけ受験競争に、学校が深くくみこまれている現状の反映と言える。

(2) 進学校での授業での一般的特徴

「生徒・父母の進学要求にこたえる」べく、各教科間で激烈な単位の取り合いさえ起こる状況で成立するカリキュラムである。今や、「生徒のバランスのとれた知的発達、社会認識、自然認識、人格の形成」は、建前上の議論ともなり難いのが進学校の実状である。

「入試でいかに良い点をとらせるか」「いかにして、より多くの国公立大・有名私大合格者を出すか」であり、生徒のやる気を待ってはもらえないのである。

こういう状況から生じる授業の一般的傾向は、①教科書内容及び受験に必要な全領域を終わらせること、②限られた時間内にできるだけ能率良く進めること、

③模擬試験や入学試験の結果による指導効果の評価から、模試・入試に直結した教材、授業展開となり、いきおい問題演習的になっていること、④考えさせる指導展開の余裕を失い、「詰めこみ」指導になっていること、⑤他教科、科目との関連をもたせた指導は失われていること、等々である。授業方法も受験産業（予備校や出版社等）の影響を強く受け、受験演習の傾向を強め、中には、「ゼミノート」あるいは「学習ノート」記入的授業すらある。

アカデミックな、研究者らしい授業をし、部活動なども通じて専門分野に意欲をもち、進学していった多くの生徒を育てたA先生が、模擬試験や入学試験での成績不振を、陰に陽に生徒や同僚から非難され、嫌気をさして転出するという例さえ生じている。

生徒の学習意欲や進学への姿勢のとらえ方においても、受験競争に根ざす学習意欲、競争から離脱するものの切り捨て、という傾向へと知らず知らずゆがめられている。

「競争と差別」を根本とする大企業の労務管理（『管理主義教育』新日本出版）との類似性が指摘できる。

生徒の知的発達や人格形成の視点から見ると、知識の羅列的把握による体系的認識の弱化、科学的認識の

第56回 新潟県民間教育研究集会

新潟の子育て・くらしのネットワークづくり

主催 新潟県教職員組合・新潟県教育研究協議会

協賛 新潟県農協労連・新潟県農協連

新潟県子ども劇場・おやこ劇場協議会

新潟県学童保育連絡会

期 日 1989(平成元年)年8月19日(土)～20日(日)

会 場 豊浦町公民館 豊浦町保健センター (新潟県 中越地区 見も5分)

日 程

9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
19日(土)	開 会 式	基調実践報告	昼食	教育実践講座	休 憩	夕食	サークル交流会 夕べのつどい					
20日(日)	子育て・くらし のシンポジウム	分科交流会 (昼食)	記念講演									

参加費2,000円 宿泊費8,000円(1泊2食) 月岡温泉 あさひ館 ほか

※2日目昼食は牛丼販売をいたします。朝、受付で食券をお買い求め下さい。

記念講演

農業と農民の新しい生きる道

日新「発展」委員長

所 英 亮 氏

多古町の農民のとくみから――

(多古町農業を守る会会長)

野菜生産農家が中心になって開いている毎日の朝市、700人のにぎわい。ナゼか地元の魚屋さん、八百屋さんも出店。出店料1回300円。だれもが出せる店、地域のふれ合いの場所なのです。

完熟トマトは新鮮で実にうまい!! 多古町は「農に生きる」町です。東京都品川区の学校給食野菜を一手に担っています。子どもたちから「モンシロチョウ」の卵おくるのたよりも好きです。給食室の調理員さんからの熱いハートの手紙も届きます。所さんは日本農業再生のトップランナーです。農業者はまたすぐれた教育者でもあります。

基調実践報告

「歴史の常識(?)をくつがえそう」

――過去の歴史も発展する――

五十嵐 公氏 新潟県

(歴史教育者協議会)

の歴史というのは動かしようのないコンクリートされたものではない。

歴史学の中身も変化、発展し教科書も変わってくる。そう考えれば歴史の勉強も楽しくなるのではないだろうか。すぐれた教材は子どもを変えるのか……。

「地域の父母と結んだ文化活動」

斎藤 広平氏 岩船

八幡小

の教育講演会、映画、親子劇場など多様な文化活動を父母、地域の人たちと継続してきた。その中からエピソードの数々、地域の子育てネットワークを広げよう。

弱化を生み出していると考えられる。また、教師からも、指導内容からも、諸科学のもつ社会性は失われてきていると言える。

三、授業内容の具体的状況

高校入試も含めた受験競争の激しさ、受験情報、親

の経済状況等から、進学希望は、国公立大学志向、偏差値ランクによる志望校決定の傾向を強めている。「一流大学に入り、一流大企業に入り、豊かな生活を」ということではあっても、大学へ入っての学問追求の意欲は年々薄れる傾向にある。今年度、大学入試センターが行った、共通一次での生物、物理の得点修正に對

する受験生・親・学校の反応は、偏差値ランクによる受験状況を白日のもとにさらした。

教科内容そのものへの興味・意欲は、指導のあり方にも原因があるとは言え、成績主義点数主義に変質させられ、「受験のため」というだけでは、日常学習にたえられないと言う層も多い。中間レベルの進学校の実態である。

また、言語能力の低下が学習上の中心的な困難点となってきたと思われる。会話力、文章理解力、文章表現力の低下が生活感覚の弱体化と一体となっているように考えられる。そのことが、国語教材の消化困難、数学での論理的思考の困難、社会科での現実社会認識との分離、などを生み出している。

国語では、応答授業やグループ学習の討論が困難になっており、解釈中心の授業がほとんどの状況である。国語、特に現代文での赤点の増加はその一つの象徴ともいえるだろう。国語が生徒にとって学習困難科目になりつつあるのである。

また社会科では、ワーク式の記憶中心、末梢知識の詰めこみ授業の傾向が増大している。入試に近代史が出題されると近代史をやるということも多く、入試知識に振りまわされているともいえる。受験体制の中で、

生徒会の自治活動や生徒の自主活動が軽視され、自治能力が弱化させられている状況での、社会を科学的にとらえ平和と民主主義をしっかりとらえさせる指導の欠如は、生徒の社会認識能力の大きな後退を余儀なくしている。他教科でも、受験演習の傾向は強まっているといえる。

四、子ども達の知的発達、人格形成にねざす

授業と受験指導

(1) 管理主義的授業の克服の課題

受験詰めこみ授業が、事務的管理主義教育と結びつきやすいことは、前述した進学校における授業の一般的特徴から見てうなづけるであろう。教材を一方的に提示するだけで学習活動を組織し、生徒を参加させ思考を発展させることのない機械的授業展開が、詰めこみ授業の基本的特徴といえよう。授業における管理主義である。

管理主義的授業の克服のためには、教材論だけではなく十分である。学習本来の喜びをつかみとらせる展開や諸活動を組織する必要があるように思われる。

(2) 学問追求への意欲、社会的課題認識を育てる指導

「受験のため」だけでは学習意欲を持続できない層も少なくない。詰めこみ指導が強まる中で矛盾も増大している。進学のためにはやむを得ないと考えつつも、「これでよいのか」という不安は、生徒にも教師にも多く存在する。

真の学力と入試学力とを、必ずしも同一には論じられないが、新潟大学教育学部の先生の、「新潟市内の進学校から来た学生より、巻高校や村上高校などから来た学生の方が、学問追求への意欲が高い」という指摘（印象論ではあるが）は、注目すべきことのように思われる。輪切りの激しい新潟学区の状況、受験体制強化の雰囲気、強い県都の中での、生徒も教師も、学校での学習が受験対応中心の傾向を強めている結果とも考えられよう。教科内容そのものの興味・意欲が、点数主義により、一層変質させられている結果とも考えられる。

しかし、他方では、大学教育にたえうる学力の必要性は否定できない。また、大学入試にたえうる学習指導、授業の視点なしには、管理主義的授業克服への実践的取組みも、父母、県民要求からみて成立しがたい。

学問的啓発や、社会的課題認識（平和や民主主義の課題や、自然環境保護の課題、社会発展への認識、等々）にねざす学習意欲、そして、高い学力レベルの追求が必要であろう。少なくとも、偏差値で大学を選ぶのではなく、具体的な学問追求への意欲をもった選択がなされる状況をつくる必要がある。大学教育の意味を問い直すべき状況にあると思われる。

また、そのためには、教師の高い学力と指導力、そして、社会性が要求されているといえる。

五、まとめに代えて

工学部を受験して一浪した生徒が、翌年には経済学部に入學するという例、共通一次入試の結果で、教育学部から農学部林業に志望を変え入學する例。偏差値に振り回されてゆれ動く生徒の状況、そのことに矛盾すら感じられずにいる状況に心が痛む。

多分に抽象的な現実批判になり、具体的展望を示し得ないものになってしまったが、今後の論議の一助となれば幸いである。

新潟市内 A校

教育課程（昭和61年度入学生より）

教科	科目	年			3年
		1年	2年	文	理
国語	国語 I	5			
	国語表現			2*	
	現代文		2	3	2
	古典		3	4	2
社会	現代社会	4			
	日本史	4	4	3	3
	世界史	4	4	3	3
	地理	4	4	3	3
	倫理			4*	2*
	政治経済			4*	2*
数学	数学 I	6		4*	
	数学 II		3		
	代数的関数		3		
	微分積分				4
	確率統計			4*	3
理科	理科 I	4			
	物理		5	2*	2Δ
	化学		5	4*	2*
	生物		5	4*	2*
保健体育	体育	2Δ男 2男 4	3	3	
	保健	1			
芸術	音楽 I	2	1		
	美術 I	2	1		
	音楽 II	2	1		
	美術 II	2	1		
外国語	英語 I	6			
	英語 II		6	2*	
	英語 III			3	3
	英語 IV			3	3
家庭	家庭一般	2男 2女 2男 0			
	計	32	32	32	32
特別活動	ホームルーム	1	1	1	1
	クラブ活動	1	1	1	1
合計		24	34	34	34

・〇印、△印、△印のそれぞれより4単位選択。
・点線は同じ科目を継続して履修。

B校

82年度（3年次）、83年度入校生

普通科									
教科	科目	1年	2年	3年	合計	文系	理系	文系	理系
国語	国語 I	4	5						
	国語 II	4		5	2Δ	2Δ		16	12
	現代文	3			3	2		1	1
	古典	2						18	14
社会	現代社会	4			3				
	日本史	4							
	世界史	4							
	地理	4							
	倫理	2							
	政治・経済	2							
数学	数学 I	4	5						
	数学 II	3			4*	4*		11	10
	代数的関数	3			3				
	微分・積分	3			3			15	
	確率・統計	3			3				
理科	物理	2	4						
	化学	2						9	15
	生物	4						11	17
	地学	4							
保健体育	体育	7-11	4(12)	3	3			13	13
	保健	2						13	13
芸術	音楽 I	2							
	美術 I	2							
	音楽 II	2							
	美術 II	2							
	音楽 III	2							
	美術 III	2							
	音楽 IV	2							
	美術 IV	2							
	音楽 V	2							
	美術 V	2							
外国語	英語 I	4	6						
	英語 II		3	3	3			18	18
	英語 III							20	20
	英語 IV								
家庭	家庭一般	4	12	12				4	4
	計	24	34	34				6	6
特別活動	ホームルーム	3	1	1	1				
	クラブ活動	3	1	1	1				
合計		34	34	34	34			102	102

C校

普通科教育課程（83年度）

教科	科目	1年	2年	3年	合計	文系	理系	文系	理系
国語	国語 I	4	5						
	国語 II	4		5					
	現代文	3			4	3		3	3
	古典	4						4	4
社会	現代社会	4			4				
	日本史	4							
	世界史	4							
	地理	4							
	倫理	2							
	政治・経済	2							
数学	数学 I	4	6						
	数学 II	3			3	3		0-6	
	代数的関数	3			3			0-4	
	微分・積分	3			3			0-3	
	確率・統計	3			3			0-3	
理科	物理	2	4						
	化学	2						0-6	
	生物	4						0-6	
	地学	4						0-4	
芸術	音楽 I	2							
	美術 I	2							
	音楽 II	2							
	美術 II	2							
	音楽 III	2							
	美術 III	2							
	音楽 IV	2							
	美術 IV	2							
	音楽 V	2							
	美術 V	2							
外国語	英語 I	4	6						
	英語 II		3	3	3				
	英語 III								
	英語 IV								
家庭	家庭一般	4	12	12					
	計	32	32	32	32				
特別活動	ホームルーム	3	1	1	1				
	クラブ活動	3	1	1	1				
合計		34	34	34	34			102	102